

緑友 だより

No. 17

全国印刷緑友会機関誌

東京都杉並区和田1-29-11 (社)日本印刷技術協会

熊本大会に参加しよう

来る十月二十五日(土)、熊本プリンティング・クラブをホストとして、第十二回大会が開催されます。すでに概要については各グループにお知らせした通りですが、その後決定した事項を加え、「緑友会だより」の誌上をかりて発表します。

全国印刷緑友会 幹事長

大 川 英 郎

本年度の緑友会は、構造改善問題を中心課題として進むことになっています。四月二十日の文京総会に続いて、去る八月二十三・四両日開催された京都での夏期セミナーに於いても、この問題が熱心に討議されました。特に夏期セミナーには、構改対策本部から主脳四氏(井上計・塚田益男・今野智吉・川俣正一)を招き、緑友会からは中畑・大河内・白石・馬場の四氏がパネラーとして参加し、従来の質疑応答の形から一步を進めて、それぞれの立場からする白熱した論戦が展開されました。

この日の討論の結果、なお、今後の過程に於いて困難な課題が山積しており、特に政府の考えている中小企業の構造改善対策の中で、どこまで業界の特殊性が生かされるかという点に、大きな疑問が残されました。結局、構改は、保護政策ではなく、助成政策であるとする認識から、我々自身の英知と努力によって、この深刻多難な時代を切り拓かなければならないという

決意を再確認したことになりました。

今回の熊本大会では、角度を変え、「今後の需要変化にいかに対応するか」をテーマとして構改問題を背後からとらえることにしました。構改の特定業種として指定を受けるか受けないかにかかわらず、需要の変化に対応する努力を忘れるわけには参りません。むしろ今後われわれが業界に生きて行くための根本的な課題といえましょう。従って、第一部のパネル・ディスカッションで提起された問題を、第二部の専門分科会に於いて経営的角度から焦点をしばって討議し、今後に対応する姿勢を見出したいと考えております。

なお、当日の記念講演は、犬山セミナーで既にお馴染みの堀田先生をお招きして「天草の乱」に就いてのお話を伺うことになりました。大会を成功させるためには、多数の参加が前提になります。

ぜひとも御来会をお待ちしています。

プログラム

とき 10月25日 ところ

受付開始 8時30分 開会宣言 9時30分
大会テーマ

今後の需要変化にいかに対応するか

第一部 パネル・ディスカッション

大会議場

今後の技術の動向をさぐる

— 文字を中心として —

大会行事

大会議場

第二部分 科 会

今後の需要変化に対応して

経営の動向を考える

- 第1分科会 協業合併業務提携を中心として
- 第2分科会 適正生産方式 適正規模を中心として
- 第3分科会 今後における文字印刷の問題点を中心として
- 第4分科会 原価管理と料金問題を中心として
- 第5分科会 産業教育と労務問題を中心として

記念講演

天 草 の 乱

キリシタン文明と日本

講師 堀田善衛氏

閉 会

■ 会場を交通センターホテル大宴会場へ移し懇親パーティ

熊 本 市 民 会 館 熊 木 市 桜 町 1 - 3 T e l . 5 5 - 5 2 3 5 (代)

例年と異り今回は大会行事を後刻にして開会宣言直後
パネル・ディスカッションに入ります。

講 師

日本経済新聞社技術部長 武 捨 久 男 氏 9 時 3 0 分 以 上
パネラー
九州産業大学助教授 木 下 堯 博 氏 2 時 間
(株)写真植字研究所 長 谷 川 泰 正 氏
司 会
文京緑友会 和 田 豊 氏

11時30分

昼 食

12時

12時30分より

3 時 間 3 0 分

リーダー 大川英郎氏(神奈川正和会)、太田博美氏(長野青年印刷人緑友会)、針生邦二氏(仙台刷親会)
リーダー 岩岡敏志氏(大阪青年印刷人クラブ)、藤田久司氏(神戸印刷若人会)、藤田俊雄氏(札幌緑友会)
リーダー 小堀正三氏(東京写真製版若葉会)、武重治氏(神戸印刷若人会)
リーダー 大河内信行氏(名古屋而立会)、中津川泰三氏(印刷同友会)、降旗顯英氏(東京写真製版若葉会)
リーダー 市村元偉氏(印刷同友会)、丸谷慶二郎氏(仙台刷親会)、安達秀雄氏(印刷同友会)

16時より

1 時 間 3 0 分

17時30分

<大至急参加申込と宿泊手続をお願いします>

18時

第7回夏期セミナー報告



去る八月二十三、二十四の両日、京都ホテルに於いて、第7回の夏期セミナーが開催されました。

当日は、台風の影響で交通機関が混乱し、開会が約40分ほど遅れましたが、第一日めの日程として、午後1時45分から約二時間にわたって、京都大学農学部教授の岡崎文彬先生(写真上)から「日本の庭園」に就いて、約80枚に及ぶスライドを拝見しながら、興味あるお話を聴きました。そのあと小憩の後、戸塚文子女史(写真中)の「旅の心」と題する講演を伺い、旅行の今昔、特に最近に於ける日本人の海外旅行が、決して単なる無駄使いに終らず、国際社会に占める日本の位置を高める結果をもたらしているという女史の見方を大変興味深く感じました。



夕食、懇親パーティで第1日めを終り、二十四日の第二日めは、前に述べた通り「構改は業界を救うか」(写真下二葉)をテーマに、構改本部の四氏と、緑友会側パネラー四氏との間で、核心にふれる白熱した討論が展開され、会場からも活潑な発言が行われました。このため、正午に閉会する予定を繰り延べ、約40分ほど閉会を遅らせたような次第です。

当日の参加者80名、収支予算面からも成功で、関係者の御協力に深く感謝すると共に、講師のお世話をいただいた東京の小堀、小林両氏、特に設営の労を願った印刷同友会の諸兄に対し、厚く御礼申し上げます。



事務局 東京都杉並区和田1-29-11 日本印刷技術協会 ☎ 166 (03) 383-3112

編集後記

夏期セミナーが終ってホッと一息ついている間に、熊本大会が目前に迫りました。

ホストの熊本プリンティング・クラブでは、実行委員長角さんを中心に、目下準備に忙殺されている様子です。テーマの決定、パネラー、リーダー等の手当てが幹事長の不手際から若干立ち遅れ、ホストに迷惑を

かけました。そのため、本誌を利用して大会の事前PRを行った次第です。

前号でもお願いしましたが、誌面を飾るため、各地グループの動きや投稿を歓迎します。どしどしお寄せ下さい。

編集責任 幹事長 大川 英 郎
発行 全国印刷緑友会事務局

機関誌「緑友だより」第17号 昭和44年9月30日発行 全国印刷緑友会